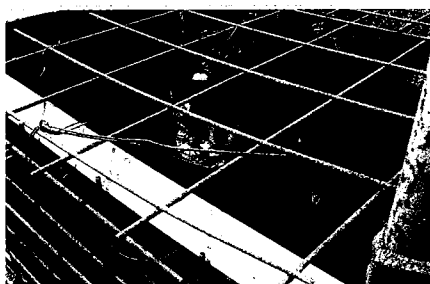


## サブロー

twice the normal dose of anaesthetic to get him 'under.' Two trimmers worked fast to clip off his coat and leave him with a 'lion cut.' Otherwise he was fine and we returned him to the family who had built a brand new enclosure for him. We watched as he walked unsteadily but freely around for the very first time in his life. Maybe with some good treatment, he'll become a loving dog.



サブローは、鹿児島県のある家庭で飼われていた犬9頭の中の1頭。その家は、数え切れないほど多くの猫も飼っている「コレクター」一家でした。8人家族なので、動物の世話くらい、その気になれば十分できるはずなのに、何もしない方針でした。代わりに、献身的なボランティアが、できるだけ頻繁に家を訪ね、動物の「医・食・住」について世話をしていました。彼らの援助は、4年半もの間、続いていたのです。

私どもは2月に、悪質ブリーダーの件で佐賀県に行きましたが、その際、鹿児島まで足をのばして、コレクターの家に立ち寄りしました。猫の多くは病気にかかっていたものの、犬の方は比較的元気な様子でした——四六時中犬小屋につながれたままで、散歩も許されないとはいえ……ただし、1頭だけ、長さ30cmほどの重い鎖に繋がれ、ワイヤーで木に縛りつけられた犬がいました。鎖が短すぎて、小屋の中に入るところか、入り口にも届かないほどです。飼い主の話によると、子供がよく前を通るので、怪我をさせては困るからとのこと。体毛は泥と糞でぐわぐわにもつれていました。ひどく攻撃的で哀れな犬になったのも、無理からぬこと。それがサブローで、10年もの長い歳月、こうして繋がれたままだったのです。

ものすごく意地悪な家族だから用心するように——私どもは、彼らについて、そう聞かされていましたが、ちょっと話してみたところ……たまたま「良い日」にめぐり合ったのか……「犬をボランティアに引き渡して、新しい飼い主を募ることにしては？」という当方の提案に彼らが賛成したではありませんか。こうしたタイプの人同意した場合、気が変わらないうちに急いで動物を彼らから引き離すのが鉄則です。犬8頭は、2日以内に別の所に移動したものの、サブローだけは

取り残されました——私どもの手に負えないし、行き場所もなかったからです。

私どもは、サブローのことが気がかりでした。何とかしなければ……とあせりました。家族は彼を手放したくない様子です。彼らと交渉しました。サブローが自由に動きまわれるきちんとした囲いを作ってくれるのなら、獣医に見せて、健康状態をくまなくチェックし、毛もきれいに整えてあげますよ——私どもは、そう説得しました。

4月初め、私どもは、再び九州入りしました。獣医からは、自分が出向くことはできないから、サブローを診療所まで連れてくるようにと言われていました。「アー・レスキュー隊」の出動です——鎖とフェンス切断用の工具一式を携えて。ところが、鎖は太すぎて、用意していたボルトカッターでは切れません。犬を解放する方法はただひとつ——木を切り倒すことだけ。この作業はサブローを極度に刺激し、ますます攻撃的にさせました。私どもは、やっとのことで、犬の首に輪縄をかけ、ケージに追い込むことに成功しました。

それから、猛スピードで動物病院まで車を走らせました。獣医は、サブローを「コントロール」するために、麻酔薬を通常の倍量投与しなければなりません。トリマーが二人がかりで手早く彼の毛を刈り、「ライオンカット」に仕立ててしまいました。それを除けば、サブローは特に問題もなく、家族のもとに返されたのです。彼らは、真新しい囲いを用意していました。私どもは、サブローが生まれて初めて——少しふらつきながらも自由に——歩きまわるのを見届けました。まともな扱いをすれば、きっと、彼も「良い子」に変身するはずです。

